

株式会社M.O.C

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2024年5月31日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社M.O.C（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社M.O.Cの企業概要.....	1
(2) 株式会社 M.O.Cの事業概要	3
(3) 経営理念	6
(4) サステナビリティ.....	7
2. インパクトの特定	10
(1) バリューチェーン分析.....	10
(2) インパクトマッピング	11
(3) インパクトレーダーによるマッピング	11
(4) 特定したインパクト.....	19
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認	22
3. インパクトの評価	24
4. モニタリング.....	26
(1) 株式会社M.O.Cにおけるインパクトの管理体制	26
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング	26

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 株式会社M.O.Cの企業概要

企業名	株式会社M.O.C
創業	1946 年 8 月
設立	2003 年 6 月 4 日
代表者名	代表取締役 加藤 治平
資本金	2,000 万円
従業員	53 人 ※関連会社含む (2024 年 4 月時点)
売上高	9.1 億円 (2023 年 8 月期)
事業拠点	本社 愛知県名古屋市中村区高道町 6 丁目 11 番 6 号 工場 愛知県名古屋市中村区新富町 4 丁目 63 番
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生重油の精製ならびに販売 ・ 産業廃棄物の収集運搬 ・ 緊急漏洩事故対応 (OIL119) ・ 特殊作業 (清掃・油抜き作業等) ・ 提携事業
関連会社	株式会社マルワ興産 (保険代理店業) 株式会社丸新石油 (再生重油卸売業)



<沿革>

1946 年	丸和オイル創業
1968 年	新富工場創設
1974 年	株式会社丸新石油へ社名変更
1985 年	八草油槽所開設
2003 年	丸新石油から分社化「株式会社 M.O.C」設立
2004 年	エコ事業所認定
2007 年	ISO14001 取得（2018 年エコアクションへ移行）
2018 年	エコアクション 21 取得



(2) 株式会社 M.O.C の事業概要

【事業内容】

(1) 再生重油の精製販売

自動車整備工場やガソリンスタンド、各種工場などから排出される廃油（エンジンオイルや鉱物系潤滑油など）を収集・運搬し、廃油再生処理を行い、再生重油を精製している。回収前に精製に不適格な不純物がな
いかを検査する。さらに、回収後および製品精製後にも徹底した成分分析を行い、「全国オイルリサイクル協会」
で定められた品質基準を実現し、高品質を維持している。

再生重油は一般的な重油に比べて CO₂排出量が少ないことに加え、非化石エネルギーに分類されることより、
環境配慮面から世界中で需要が拡大している。また、再生重油は一般的な重油に比べ価格が安い、エネル
ギー効率に差異はなく、あらゆる分野で需要が大きい製品である。同社製品は、製紙工場やアルミ製造工場、
セメント生産工場、ガラス工場、石炭製造工場など幅広い産業で活用されている。



(2) 産業廃棄物の収集運搬

主に、廃油回収先において、オイルだけではなく産業廃棄物（汚泥、金属くず、廃アルカリ、廃プラスチック類
など）の回収も行っている。少量多品種で、手間のかかる廃棄物の収集・運搬も行う体制を整えており、様々な
ニーズに対応している。回収した産業廃棄物は、提携している中間処理施設等に運搬し、適切にリサイクル・処
分が行われている。

〈許可内容〉

取引先種別	産業廃棄物								特別管理産業廃棄物		
	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	木くず	金属くず	ガラスくず	引火性廃油	腐食性廃油	腐食性 廃アルカリ
愛知県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岐阜県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
三重県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
静岡県	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
滋賀県	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
福井県	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
長野県	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
富山県	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●
石川県	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●

(3) 緊急漏洩事故対応 (OIL119)

緊急漏洩事故対応 (OIL119) は、油のプロフェッショナルである同社による、油の漏洩事故を解決し、被害を最小限に留めるサービスである。油漏洩事故が発生した場合に大切なのはスピードであるが、同社は現地調査から洗浄対応までワンストップで対応できるため、被害と対処時間を最小限に留めることができる。施設や設備の老朽化、人為的ミス、地震などの自然災害、交通事故や火災など、漏洩事故リスクは常時存在することから、問い合わせに 24 時間対応している。

また、油の洗浄には、化学的な薬剤ではなく環境負荷の少ない微生物由来の処理剤を使用している。そのため、環境を汚染せず、人体にも悪影響が少ない、安心安全な洗浄を行うことができる。



油漏洩事故の例



洗浄後の状況

(4) 特殊作業

・工作機械切削油および切削水拔取り作業

工場の切削機械などに使われる水や油の抜き取りを行う。定期的な交換を行うことで機械の劣化を防ぎ、安定した機械動作の維持につなげる。

・工作機械洗浄作業

切削油および切削水を抜き取った後の清掃作業。工作過程で排出されたスラッジや切粉も隅々まで清掃を行う。定期的な清掃により切削液の成分バランスを維持し、劣化防止、加工精度の維持につなげる。

・側溝清掃作業

大雨の際の逆流や悪臭、水質汚染の危険性を防ぐため、側溝の土砂等の堆積物を除去する。

・タンク油抜き取り作業／中和剤洗浄作業

(5) 提携事業

提携企業と連携して、以下のような作業を行っている。

・汚染土壌改良

油等で汚れた土壌環境の改良は環境保全のために必要不可欠な取り組みである。同社では顧客毎に合わせた調査を実施し、的確な対応法を提案、土壌汚染の改良に努めている。

・地下タンク検査

地下タンクおよび埋設配管の漏洩検査は、消防法第 14 条にて定期検査を義務づけられており、同社では漏洩事故を未然に防ぐ、安全性の高いメンテナンスプランを提供している。

【同社の強み】

- ・主たる事業は廃油の回収再生であるが、廃油回収に付帯して産業廃棄物の収集運搬も行うことができるため、顧客の廃棄・リサイクル需要に柔軟に応えることができる。
- ・また、同社では油の漏出を防ぐ設備である油水分離槽の清掃も請け負っている。写真比較などによる丁寧な作業完了報告書を提出している。また、これまでは清掃作業は一律に時期を決めて定期的に行っていたが、事前に汚れ具合などを確認し、状況に合わせた清掃間隔の提案などを行うようなサービスも始めている。これにより設備の適切な維持管理および顧客の経費削減に寄与している。
- ・こうした廃油の回収に留まらないサービスの提供や丁寧な対応により、単純な価格競争を回避した事業展開を実現している。

【今後の展開】

- ・現在はカーディーラーを中心とした取引先構成となっているが、今後は割合の小さかった金属加工工場の取引先も拡大していく方針。再生重油の社会的需要は大きく、取扱量を増加させ、需要に応じていく。
- ・提携事業として行っている土壌汚染改良について、生分解性の改良剤を導入し、より安全で安価な対応を可能としていく。

(3) 経営理念

同社は以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

Vision

「地球の幸せを創造する」

株式会社 M.O.C は廃油の再生と産業廃棄物の収集運搬業を通じて地球環境保全への貢献を行なっています。その中で、法令を遵守し、弊社に期待いただく皆様の要求に応えること、業務や仕組みを絶えず改善し、持続可能な会社作りを通じて、お客様と未来の子どもたち、そして母なる地球に喜ばれるように努力します。

Mission

M.O.C は、
持続可能な社会の実現に貢献します。

Value

「実行力」「創造力」「誠実」「革新」

また、創業者の言葉である、「いらないものにも価値がある」「この業界は地球や社会に貢献するための事業だ」との考えを現在に至るまで継承し、全社員が強く意識をもって事業に取り組むよう心掛けています。

毎月1回、全従業員が参加する全体会議を開催するとともに、週1回担当業務ごとに分かれて従業員会議を行い、業務に関する情報共有を行っている。

同社は本業そのものがサステナブルな側面を強く持つものであるが、後述の社会貢献活動なども加え、経営理念の達成を目指している。

(4) サステナビリティ

同社は、以下のような ESG 経営に基づく事業展開を行っている。

①環境 (Environment)

「環境対策に取り組み、持続可能な社会を目指す」

<環境理念>

株式会社 M.O.C は、廃油の再生と産業廃棄物収集運搬を通じて、地球環境保全への貢献を行っています。その事業の中で、法規制や業界基準、当社に期待いただく皆様の要求を守ること、業務や仕組みを通じて成果を上げるための継続的な改善を通じて、お客様と未来の子供たち、そして母なる地球に喜ばれるよう努めます。

<環境保全への行動指針>

1. 環境保全に積極的に取組むため EA21 マネジメントシステムを構築して、継続的改善に努めます。
2. 事業活動に関連する法令・条例・その他、地域との取決め事項等を遵守し、自然環境や資源の保護に努めます。
3. 事業活動から発生する以下の環境負荷の低減に努めます。
 - ① ガソリン・軽油・重油・電力等の節減による、二酸化炭素排出量の削減
 - ② 受託した廃棄物や事業活動から発生する廃棄物の削減とリサイクル推進
 - ③ 節水活動等による水資源使用量の節減
4. 環境に配慮した物品の優先購入に努めます。
5. 環境に配慮した廃棄物の処理を推進し、可能な限り再資源化に取り組むことで顧客ニーズに応えます。
6. 業務の効率化や環境に優しい車輛への入替え等により、環境負荷の低減と事業の成長を目指します。
7. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてまとめ公表します。

具体的には以下のような取り組みを行っている。

・エコアクション 21

環境省が策定した環境経営の認証・登録制度に沿って、持続可能な経済社会の構築を目指すことを使命としてエコアクション 21 に取り組んでいる。具体的には下記の各取組みを行い、事業年度ごとに目標を定め、計画的な削減活動と評価を行っている。

電力の削減	空調使用の見直し、適切な消灯、蛍光灯の LED 切り替え
ガソリン・軽油使用量の削減	アイドリングストップ、急発進の抑制、効率的な収集運搬計画の策定
産業廃棄物の再生量確保	社内システムや会議による目標と実績の共有化
水資源使用量の削減	無駄遣い防止、社員同士の声掛け
コピー用紙の削減	裏紙の利用、電子化推進
ゴム手袋使用量の削減	持ち出し時の管理方法を設定、使用実績の共有
グリーン購入の推進	グリーン購入対象物品の購入推進

・CO2 削減への取り組み

回収ルートの見直しや環境負荷の少ない車両への更新などに取り組んでいる。

・環境維持

OIL119 の活動において、環境負荷の少ないオイル吸収剤などを使って素早く対応し、環境への被害を最小限に食い止めるよう努めている。



②社会 (Social)

「社員が安心して健康で長く働ける環境へ」

・社員の健康をサポート

社員の健康を考慮した食事を定期的に用意している他、医療用還元水の常設や酸素ルームの設置、各種サプリメントの無料提供など、社員の健康に配慮した福利厚生を整えている。また、定期的な血流測定や、人間ドッグの全額負担により健康維持をサポートし、健康意識を高めている。

・平等な働きやすい環境を

全社員、性別問わず育児休業の取得推進に努めている。また、大型免許や危険物取扱者などの各種資格取得の費用を会社が負担し、社員の能力開発に注力している。

・業務のデジタル化の推進

社員の負担を減らすだけでなく、環境問題への取り組みとしても、積極的にペーパーレス化の推進やデジタル化に取り組んでいる。自社開発したアプリを活用し、業務効率化が図られている。



③企業統治（Governance）

「健全な企業経営による社員・環境・地域への貢献」

・地域環境への貢献

定期的に近隣地域の清掃活動をしている他、大学生のボランティア活動の支援や海のゴミ拾いを行い、より住みやすい街づくりに貢献している。

・プラスチックゴミ0への活動

プラスチックゴミの削減を目指す為にオリジナル・エコバックを作るなど、社員一人一人に対して普段からSDGsを心掛け、行動する事を意識付けしている。

・自然から感じられる学び

社員が守るべき自然の大切さを学び、豊かな心作りができるための活動の一環として、無農薬みかん農家への体験研修を行っている。当該みかん農家へは会社として投資も実施しており、社員の意識醸成と環境面の取り組みを両立して行っている。



みかん農家体験の様子

2. インパクトの特定

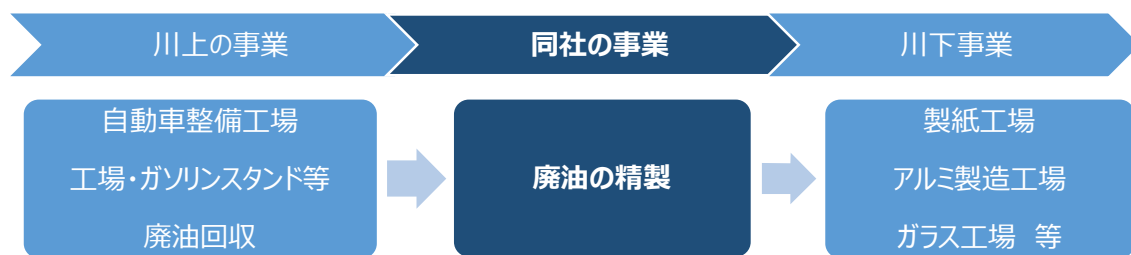
(1) バリューチェーン分析

- 同社の主たる事業は、廃油の回収再生であり、自動車整備工場やガソリンスタンド、各種工場などから排出される廃油（エンジンオイルや鋳物系潤滑油など）を収集運搬し、廃油再生処理を行い、再生重油を精製している。廃油回収に付帯して産業廃棄物の収集運搬も行っており、顧客の廃棄・リサイクル需要に柔軟に対応することができる。
- また、長年の業歴の中で培った“油”に関する技術とノウハウを活かして、油の漏洩事故の被害を最小限に留めるサービスや、油の漏出を防ぐ設備である油水分離槽の清掃事業など、幅広く事業を展開している。
- 同社の事業を、主要事業である「再生重油精製・販売」、「産業廃棄物の収集・運搬」、および今後注力していく事業である「油水分離槽の清掃事業」とする。

<バリューチェーン全体の構造>

①再生重油精製・販売

自動車整備工場などから排出される廃油を収集運搬し、廃油再生処理を行い、再生重油を精製している。再生重油は、製紙工場やアルミ製造工場、セメント生産工場、ガラス工場、石炭製造工場など幅広い産業で活用されている。



②産業廃棄物の収集・運搬

主に、廃油回収先において、污泥、金属くず、廃アルカリ、廃プラスチック類などの回収も行っている。回収した産業廃棄物は、提携している中間処理施設等に運搬し、適切にリサイクル・処分が行われている。



③油水分離槽の清掃事業

自動車整備工場など、油を利用する工場では、油と水を分離する「油水分離槽」と呼ばれる排水設備が設置されており、同社はその清掃業務を行っている。



(2) インパクトマッピング

大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、事業毎にインパクトマッピングを実施、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

①再生重油精製・販売

- 川上事業を、「自動車整備・修理業（国際標準産業分類 4520）」、「専門店による自動車燃料小売業（同 4730）」とする。
- 同社事業は、「精製石油製品製造業（同 1920）」、「材料再生業（同 3830）」とする。
- 川下事業は、主な販売先である「パルプ、紙及び板紙製造業（同 1701）」、「セメント、石灰及び石膏製造業（同 2394）」、「第一次貴金属・その他非鉄金属製造業（同 2420）」、「ガラス及びガラス製品製造業（同 2310）」とする。

バリューチェーン 国際産業標準分類	川上の事業				同社事業				川下事業							
	自動車整備・修理業 (4520)		専門店による 自動車燃料小売業 (4730)		精製石油製品製造業 (1920)		材料再生業 (3830)		パルプ、紙及び 板紙製造業 (1701)		セメント、石灰及び 石膏製造業 (2394)		第一次貴金属・その他 非鉄金属製造業 (2420)		ガラス及びガラス製品 製造業 (2310)	
インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
水																
食料																
住居											●				●	
健康・衛生		●				●	●●		●		●					
教育									●							
雇用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エネルギー					●											
移動手段	●●		●		●											
情報													●			
文化・伝統									●							
人格と人の安全保障																
正義																
強固な制度・平和・安定																
水（質）						●●	●●	●●		●●		●●		●		●●
大気						●●	●	●		●		●		●		●
土壌		●		●			●●					●●		●●		●●
生物多様性と生態系サービス							●●									
資源効率・安全性						●	●●	●		●		●		●●		●
気候				●		●●	●			●		●●		●		●
廃棄物		●				●	●●	●		●●		●		●		●
包括的で健全な経済			●		●				●		●		●		●	
経済収束																

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

②産業廃棄物の収集・運搬

- ・ 同社事業を、「有害廃棄物収集業（同 3812）」とする。
- ・ 川下事業を、産業廃棄物等の収集先である「自動車整備・修理業（国際標準産業分類 4520）」、「専門店による自動車燃料小売業（同 4730）」とする。

バリューチェーン	同社事業		川下事業			
国際産業標準分類	有害廃棄物収集業 (3812)		自動車整備・修理業 (4520)		専門店による 自動車燃料小売業 (4730)	
インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
水	●					
食料						
住居						
健康・衛生	●●			●		
教育						
雇用	●	●	●	●	●	●
エネルギー						
移動手段			●●		●	
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義						
強固な制度・平和・安定						
水（質）	●●	●●				
大気		●				
土壌	●●	●●		●		●
生物多様性と生態系サービス	●●					
資源効率・安全性	●	●				
気候		●				●
廃棄物	●●	●		●		
包括的で健全な経済	●				●	
経済収束						

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

③油水分離槽の清掃事業

- ・ 同社事業は、「浄化活動及びその他の廃棄物管理業務（同 3900）」とする。
- ・ 川下事業を、清掃サービスの提供先である「自動車整備・修理業（国際標準産業分類 4520）」、「専門店による自動車燃料小売業（同 4730）」とする。

バリューチェーン	同社事業		川下事業			
国際産業標準分類	浄化活動及び その他の廃棄物管理業務 (3900)		自動車整備・修理業 (4520)		専門店による 自動車燃料小売業 (4730)	
インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
水	●					
食料						
住居						
健康・衛生	●	●		●		
教育						
雇用	●	●	●	●	●	●
エネルギー						
移動手段			●●		●	
情報						
文化・伝統						
人格と人の安全保障						
正義						
強固な制度・平和・安定						
水（質）	●●	●				
大気	●					
土壌	●	●		●		●
生物多様性と生態系サービス	●●	●				
資源効率・安全性		●				
気候		●				●
廃棄物	●●	●		●		
包括的で健全な経済					●	
経済収束						

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

発現したインパクトについて、事業毎に対応するSDGs ターゲットを整理する。

再生重油精製・販売事業

川上の事業

(i) 「土壌」、「廃棄物」

- ・ 廃油には、有害物質や化学物質が含まれている場合があるため、廃油を適切に処理せずに環境に放出すると、水質や土壌の汚染、生態系への悪影響など、環境への深刻な問題が引き起こされる可能性がある。
- ・ 同社が廃油を回収し、再生重油に精製することで、土壌汚染などを防止し、廃棄物削減につながることから、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
12.2：天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する
12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する

(ii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

同社の事業

(i) 「雇用」

- ・ 同社は、健康経営を推進し、プロテインの提供や、毎週専属のシェフが栄養バランスの良いお弁当を提供するほか、人間ドック受診費用の全額負担をするなど従業員の健康維持・増進に力を入れており、PI 拡大に寄与している。また、業務に必要な資格取得の推奨や、性別問わず育児休暇を取得できる制度を整備するなど、働きやすく、働きがいのある職場づくりに努めている。また、運搬中の事故を防ぐため、安全講習を定期的に行い、労働災害リスクを減らす取り組みを行っており、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する
8.8:すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する

(ii) 「エネルギー」、「包括的で健全な経済」

- ・ 再生重油は、廃油を原料として生産するため、A 重油や C 重油に比べて安価で提供できる。また、原油価格に左右されにくいいため、川下企業は、同社が製造した安定した価格で品質の高い再生重油を利用することで、持続可能な経済活動を行えるという PI 拡大に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
7.2：世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる
9.4：資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う

(iii) 「大気」、「資源効率・安全性」、「気候」、「廃棄物」

- ・ 再生重油には、環境面において以下のメリットがある。

①CO₂ 排出量が少ない

A 重油や C 重油に比べて 1 ℓ 当たりの炭素質量が小さいので CO₂ 排出量が少ない

②硫黄酸化物 (SO_x) が少ない

A 重油や C 重油に比べて、大気汚染の要因の一つである、SO_x のもととなる硫黄分が少ない

③天然資源 (石油) の使用量削減

廃油を原料として生産するため、天然資源の使用量削減に繋がる

- ・ 同社は、上記メリットがある再生重油の生産を強化していく方針であり、環境面の PI 拡大に寄与する。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

7.2 : 世界のエネルギーミックスにおける再生エネルギーの割合を大幅に拡大させる

11.6 : 大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.4 : 製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

13.1 : 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性 (レジリエンス) 及び適応の能力を強化する

(iv) 「水 (質)」、「大気」、「土壌」、「生物多様性と生態系サービス」

- ・ 精製処理工程や廃油の収集・運搬において、水質・大気・土壌汚染のリスクはあるが、徹底した工程管理や、法令に準拠した確実な処理など適切な対策を行うことで、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

11.6 : 大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.4 : 製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

(v) 「気候」

- ・ 同社は、エコアクション 21 に参画し、電力の削減や燃料使用量削減、紙使用量の削減、グリーン購入推進などを通じて、CO₂ 排出量削減に積極的に取り組んでおり、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

13.2 : 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む

(vi) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

川下の事業

(i) 「気候」、「資源効率・安全性」

- ・ 同社が生産した再生重油を使用することで、温室効果ガス排出量削減や、資源の効率的な利用に貢献している。また、再生重油を使用することは、企業イメージ向上や SDGs の取組みとしてアピールできることから、環境意識向上にもつながっている。

- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

7.2：世界のエネルギーミックスにおける再生エネルギーの割合を大幅に拡大させる

12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

13.1：全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する

(ii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

産業廃棄物の収集・運搬業

同社の事業

(i) 「水（質）」、「土壌」、「資源効率・安全性」、「廃棄物」

- ・ 同社は、愛知県をはじめ、9 県で産業廃棄物および特別管理産業廃棄物の許可を取得しており、幅広いエリアの顧客ニーズに応えることができる。また、少量多品種の処分が可能であり、手間がかかる産業廃棄物にも対応できる体制が整えられている。

- ・ また、ケミカルサイクルやマテリアルサイクル等、適切にリサイクル・処分を行える中間処理施設と提携しており、環境面の PI 拡大に寄与している。

- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

6.3：汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する

12.2：天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する

12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する

(ii) 「大気」、「気候」

- ・ 同社は、産業廃棄物運搬時に発生する CO₂ や NO_x、PM などの排出量等の削減に向けて、トラック買い替え時に燃費性能が高いトラックに切り替えていく方針であり、環境面の NI 縮小に寄与している。

- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 11.6：大気、水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する
 - 13.1：全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する

(iii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

川下の事業

(i) 「土壌」、「廃棄物」

- ・ 同社事業で述べた通り、同社が産業廃棄物を回収し、適切に処理することで、土壌汚染などを防止し、廃棄物削減につながることから、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 6.3：汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する
 - 12.2：天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する
 - 12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する

(ii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

油水分離槽の清掃事業

同社の事業

(i) 「水（質）」、「土壌」、「生物多様性と生態系サービス」

- ・ 油水分離槽は、油を施設外に流出させないために必要な構造物であり、定期的な清掃が必要となる。清掃の頻度は通常 1 年に 2 回程度であるが、同社は定期的に事前点検を行い、必要に応じて清掃を行うことで、川下企業の水質・土壌汚染の防止に繋がっており、PI 拡大に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 11.6：大気、水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する
 - 12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

(ii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

川下の事業

(i) 「土壌」、「廃棄物」

- ・ 同社事業で述べた通り、同社油水分離槽を定期的に清掃することで、土壌汚染などを防止し、廃棄物削減につながることから、NI 縮小に寄与している。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

11.6：大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

(ii) 評価対象外のカテゴリ

- ・ 上記以外で発現した PI、NI は、同社事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

（４）特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

再生重油の生産量拡大による循環型社会の形成

- ・ 同社が生産する再生重油は、環境面や経済面においてもメリットが大きく、今後も需要増加が期待できるため、今後も同事業拡大を予定しており、現在は名古屋市内の自動車整備工場などからの買取がメインであったが、今後は愛知県全般や三重県内の事業者との取引を増やしていく方針である。
- ・ なお、再生重油の精製にあたっては、回収前・回収後、製品精製後の成分分析の徹底や、「全国オイルリサイクル協会」で定められた品質基準を順守していく。
- ・ 同社はドライバーが自ら顧客管理を行っており、油交換に関わる期日管理や対応を行うことで競合他社との差別化を図り信頼向上等に繋がっている。今後は属人的な仕組みではなく、AI導入等により社員全員の標準化を図っていく。
- ・ このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「エネルギー」、「包括的で健全な経済」、「気候」、「大気」、「資源効率・安全性」、「廃棄物」、「水（質）」、「土壌」、「生物多様性と生態系サービス」のカテゴリに該当し、環境・社会・経済面の PI を拡大、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

7.2：世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる

9.4：資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う

11.6：大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

13.1：全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する

環境に配慮した経営の推進

- ・ 同社は、前述の通りエコアクション 21 へ参画し、電力の削減や燃料使用量削減、紙使用量の削減、グリーン購入推進などを通じて、CO2 排出量削減に積極的に取り組んでいる。また、毎月のミーティング等でアナウンスすることで、社員にエコアクションの取り組みを意識づけさせている。
- ・ 今後は、営業車を順次燃費性能の高いトラックや、ハイブリッド車への切り替えを行うことで、さらなる CO2、NO_x、PM などの排出量削減に取り組む方針である。
- ・ このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「大気」、「気候」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

11.6：大気、水、土壌及びその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する

13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む

油水分離槽の清掃事業拡大による環境への配慮

- ・ 同社は、油の流出を防止する油水分離槽清掃事業を拡大する方針である。同設備は、油を使用する、自動車整備工場や産業廃棄物処理工場などに設置されており、通常年に 2 回程度の清掃が必要とされている。
- ・ 同社では、取引先企業の排水を点検し、産業廃棄物処分業許可の基準を満たす水質が維持されていることを確認し、油の流出を事前に防ぐとともに、お客様の無駄に清掃活動を重ねなくてもいいようサービスを拡充している。
- ・ このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「水（質）」、「土壌」、「生物多様性と生態系サービス」のカテゴリに該当し、環境面の PI を拡大すると考えられる。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

11.6：大気、水、土壌及びその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する

12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する

社会 (Social)

働きやすい職場環境の整備

- ・ 同社は、従業員が快適に健康的に仕事できるよう、ワークライフバランスの理想を実現するため、福利厚生を充実させている。今後は、有給休暇の取得率の引き上げることで、ワークライフバランスの充実を図っていく方針である。
- ①資格取得支援
運転免許や危険物の資格など業務に必要な資格を全額支援※している
※資格の種類によって条件がある。
- ②従業員の健康管理
従業員の医療保険を会社が負担する
年に1度健康診断の受診（希望者は脳ドッグ受診も可）
事務所に常時サプリメントを設置
週1回、専属のシェフによる栄養食の提供
提携スポーツジムを割引価格で利用可能
- ・ このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する
8.8:すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する

企業統治 (Governance)

労働災害「ゼロ」の継続

- ・ 同社の事業活動において、運搬中の交通事故や、産業廃棄物の積み下ろし時の事故などのリスクがあるが、同社では毎月安全講習を行い、ヒヤリハットなどについて情報共有することで、労働災害ゼロを継続している。
- ・ このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「雇用」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- ・ SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
8.8:すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

①国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」、「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」、「11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する)」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12、13」において、大きな課題が残る、「6、7、8、11」において、課題が残るまたは重要な課題が残るとなっており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



②愛知県におけるインパクトニーズ

- 同社の営業エリアである愛知県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、愛知県における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

愛知県 SDGs 未来都市計画 –SDGs の推進に資する取組（抜粋）–
<p>○<u>中小企業の持続的発展に向けた支援</u></p> <p>「100 年に一度の変革期」に直面している自動車関連の中小企業や、デジタル化の進展により大きく変化する産業構造の中にある中小企業が持続的に発展していくため、新事業展開やデジタル技術活用の支援を行う。</p> <p>○<u>若者・女性・外国人の活躍促進</u></p> <p>若者が社会で活躍できるよう、企業における若者の就労や職場定着の取組を支援する。 経営者の意識改革やワーク・ライフ・バランスの推進、保育サービスの充実、女性の企業や再就職支援など、働く場における女性の活躍を促進する。</p> <p>○<u>「あいち地球温暖化防止戦略 2030」の推進</u></p> <p>地球温暖化防止に関する取組を総合的かつ計画的に推進する。</p>

③大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。






同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）
再生重油の生産量拡大による循環型社会の形成 環境に配慮した経営の推進 油水分離槽の清掃事業拡大による環境への配慮	気候変動対応、環境保全 地域経済の持続的成長
働きやすい職場環境の整備 労働災害「ゼロ」の継続	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。



3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する



再生重油の生産量拡大による循環型社会の形成

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において PI を拡大 社会的側面において PI を拡大 経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「気候」「大気」「資源効率・安全性」「廃棄物」「エネルギー」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	    
内容・対応方針	・品質基準を遵守した再生重油精製を拡大していくことにより温室効果ガス排出量削減ならびに循環型社会を形成し、環境面・社会面・経済面でお客様に貢献していく
KPI	・廃油の再資源化量を 2030 年度までに 5,500t 以上にする (2022 年度実績 2,600t)


環境に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「大気」「気候」「廃棄物」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・カーボンニュートラルへの取組の加速、ペーパーレス化の推進により、環境負荷低減を実現する
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量を 2030 年度までに 2022 年度比 50%削減する (2022 年度実績：740,000kg-CO₂) ・2030 年度までにトラックを除く全ての営業車両を EV・HV に入れ替える (2022 年度実績：EV・HV 営業車両数 4 台／全営業車両数 11 台) ・「エコアクション 21」の認証取得を継続する ・コピー用紙使用量を 2030 年度までに 2022 年度比 50%削減する (2022 年度実績：74,500 枚)


油水分離槽の清掃事業拡大による環境への配慮

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において PI を拡大
カテゴリ	「水（質）」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・ 事前点検実施による油流出の未然防止や清掃頻度の適正化を図り、環境面およびコスト面でお客様に貢献していく
KPI	・ 油水分離槽清掃業務における顧客数を 2030 年度までに 1,000 件にする (2022 年度同顧客数：933 件)

働きやすい職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・ ワークライフバランスの向上などにより働きがいのある企業風土を醸成する
KPI	・ 有給休暇取得率を 2030 年度までに 50%以上に向上させる (2022 年度実績：10%)

労働災害「ゼロ」の継続

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・ 安全講習等を継続実施し、引き続き社員全員で安全意識向上に努めていく
KPI	・ 重大な労働災害の発生「ゼロ」を継続する

4. モニタリング

(1) 株式会社M.O.Cにおけるインパクトの管理体制

- 同社では、財務担当の渡邊 邦昭氏を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。
- 今後については、統括責任者を監査役・加藤 清二氏、管理責任者を財務担当の渡邊 邦昭氏とし、SDGs の推進、並びに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行と OKB 総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、および OKB 総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行および OKB 総研がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は OKB 総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。